

週日の説教

金 大烈 神父 2009年11月6日(金)

《永遠の命への準備》

おはようございます。

今日の福音(ルカ 16・1~8)の内容はどういう事でしょうか。イエス様は、不正な管理人を誉めたのでしたね。そうしたら、私達もこの不正な管理人のように人をだましなが、ずる賢く振舞ったほうが神様の目に留まり誉められるのでしょうか。どういう意味ですか?皆様はご存知ですか?なかなか理解出来ない物語でしょう。

簡単に申し上げます。この福音を通してイエス様がおっしゃっているのは“準備性”です。“準備性”。実際この物語を読んで見ますと、この管理人はもう逃げ場はないし、逆らう方法もないし、物乞いするのは恥ずかしいし、土を耕すにも力がないし、どの道も選ぶことの出来ない状態ですよね。大体この様な状態になったら変になってしまうか、あきらめてしまうかが、私達の姿です。

皆様がこのような状態に陥ったら、どの様な気持になるでしょうか。どうすればいいか分からないですよね。何をすべきか分からなくなりますよね。しかし、この人はあきらめなかったのです。今までやってきた管理の仕事をやめさせられても困らないように、自分の後のことを自分なりに、その方法を一生懸命よく考えてどうすればいいか、本気を持ってやった訳です。

ですから、今日の福音でイエス様がおっしゃったのは“準備性”です。信者である私達に、未来の事、最後の未来の事、死について、永遠の命について、どのような気持で準備しているのか、それを本当に私達に警戒させるための話ではないかと思います。

皆様、イソップのウサギと亀の競争のお話しをご存知ですよね。大体確率的に見ても、生まれつき優れた頭を持っている人と、ちょっと足りないけれど、忠実な性格を持っている人が競争すれば、ほとんど結果的にはちょっと足りないほうが勝ちます。これは、イソップの面白い話だけではなく、実際に人生をよく見てみますと、優れたタレントを持っている人は大抵怠る傾向があります。色々な事が簡単に出来てしまうので努力する必要性をさほど感じないからです。ある人達は何日も夜通し一生懸命やった事でも、恵まれた人達は短時間で直ぐ出来ますので怠け者になってしまい、結果的に負けます。

今日の福音を通してよく考えてください。色々な足りない所、その足りない所を持っていると自覚している人の救いの道はやはり根気です。粘り強くあきらめずに何とかして最後の光を見ようとするその心、その心があれば必ず神様が、その結果を、実りを、見せて下さると思います。ですから信仰も同じじゃないかと思います。なかなか見えないし、聞こえないし、今、うまく行っているのかそうじゃないのか分からないし、空を眺めているのがもっと面白いし、遊びに行くのに何か意味があるように思うかも知れません。しかしいつか神様が話して下さいでしょう。返事をして下さるでしょう。根気を持って祈られる、祈る人々、その人々が結局永遠の冠を受けられると思います。

この様な事をイエス様が話されたのではないかと、今日の福音を読んで黙想してみました。

ありがとうございました。